

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-894-1781
090-9602-0700

諫干・調整池の水はいらん！

農業用水ひどい悪臭

長崎県の市民らは、8月3日、諫早湾干拓農地を視察した。この視察には、広津素子衆議(自民)、仁比聡平参議(共産)も同行した。視察団は、小江干拓地を視察。灌漑用水のバルブを開くと、付近に悪臭が蔓延した。視察団がその水を嗅ぐと強烈な腐臭に耐え切れず咳き込んでしまった。この水がそのまま諫早干拓農地で使用されている。



干拓農地を視察する広津議員(自民)と仁比議員(共産)

谷川農地雑草栽培！

視察団はTGF(注参)の入植地を視察した。ところがTGFの入植地は広大な雑草地として

放置されており、実際にはほとんど農業を行っていない実態が明らかとなった。

【注】TGFは、谷川農水政務官の長男と金子長崎県知事の長女が取締役を勤めていた会社で、諫早干拓で造成された小江干拓地に入植している。小江干拓地は実質的には埋立地であり中央干拓地に比べ格段に条件が良いといわれている。

調整池アオコだらけ

視察団はその後、潮受け堤防を視察。調整池の水が緑色を帯びた乳白色に変色していた。視察団が調整池の水をペットボトルに汲んだところ、無数のアオコの塊が浮遊しているのがはっきりと確認できた。



ペットボトルに汲んだ調整池の水(緑色の粒がアオコ)

アオコシンポ開催・諫早 生物化学兵器の材料？

8月3日、諫早市内において「漁業と農業の両立のためにアオコシンポジウム」が開催され130名の市民が集まった。シンポには国会から広津素子議員(自民)、仁比聡平議員(共産)も参加した。

高橋徹教授(熊本保健科学大学)は基調講演で諫早干拓調整池で大発生しているアオコが青酸カリの50倍もの強い毒性を持つマイクロシステンで米国防省から生物化学兵器の材料に指定される劇物であると語った。マイクロシステンは多数の死亡例も報告され慢性肝炎や肝ガンも引き起こすとし、高橋教授は調整池の水の飛沫を浴びるのも危険だと調整池に近寄らないよう警告を發した。また、閉門したままではアオコを消滅させることはできない、アオコは海水に触れると死滅するため早急に開門し海水を導入するよう呼びかけた。

シンポでは、有明海沿岸4県の漁民達が「農水省は開門すると漁業被害が発生すると言うが、今は濁った水を排出するだけ。開門し海水導入すれば、調整池の水質は改善するので、今よりも、ずっとマシンになる」と排水門の開門を口々に訴えた。

ピンチをチャンスに 広津素子議員(自民)

【毎日新聞7月29日】
「永田町ブログ」広津素子さん(自民)

諫早湾干拓訴訟において、潮受け堤防の排水門開門を命じる佐賀地裁判決が出たのを受け、漁民の皆さまが、「控訴を断念して速やかに開門してほしい」旨を求めに来られ、私も同行して若林農水大臣に陳情しましたが、残念ながら、国は福岡高裁に控訴することにしました。△有明海では、湾の締め切りによって、海の水環境に大きな変化が起こり、深刻な漁業被害が出ています。一方で、干拓地では、2008年4月から農業が始まり、調整池の水は農業用水として不可欠であるため、開門できないと言われていています。△けれども、この二つの問題を解決して農業と漁業を両立させる方法がありません。諫早市の下水から、水質の高い高度下水処理水を作り、農業に利用するのは、△下水処理水からは、窒素を含み肥料を節約できる水さえ作ることが可能です。△工夫すれば、ピンチをチャンスに活かし、水の循環型社会モデルを、この地で実現することができるとは、いかがでしょうか。